



昭和52年 県高校総体 代表決定戦での試合風景

あと一歩で全国大会に届かず

高校総体では、昭和50年は決勝まで進出するも能代工業に敗北。その年、能代工業は初の三冠王（全国選抜、県総体、国体で優勝）を達成しています。翌51年は、能代工業が前年全国優勝のため県代表枠がもう1校増えたことから、雄物川高校と代表決定戦で対戦、惜しくも2点差（51対53）で敗退、全国大会出場を逃しました。

そしてわれわれが3年生となつた昭和52年は、突出した選手が卒業し、県内でも中の上程度のチームでした。新人戦では不甲斐ない戦いぶりに大先輩の堀田井孝三さん（昭和10年卒）が試合後、会場裏に集合した際、唇を震わせて怒っていたことが思い出されます。

「ト！」の嵐が鳴り響きました。合宿中の厳しい練習により嘔吐する者、疲労で食事を摑れず倒れる者など、体力・精神的にも厳しいものでした。

そんな中でもユニーフルだったのが、食事前に全員で歌う「ごはんの歌」です。

「ごはん、ごはん、さあ食べよう
風もさわやか、*心も軽く、みんな
元気だ、感謝して、楽しいごはんだ、
さあ食べよ（線路は続くよどこま
でも）のメロディで」

（*実際は「心も軽く、みんな元気だ」とはほど遠い状態でしたが…）

一方、普段の練習は授業終了後の1時間半、中学時代より短時間ながら

も中身は濃く集中したものでした。また、先生の教え子がいる国鉄秋田（現JR東日本）、小坂鉱山（同和）や秋田大学など社会人や大学生との練習試合は、チームを大きく成長させたものだと思います。

また、試合形式の練習では、プレーが止まらなくとも、気づいたところがあると、先生はホイッスルを鳴らして、選手個々の動きに指示や改善点を出されます。指示や改善点を受けた当人だけでなく全員が耳を傾け、自らのプレーに活かす姿勢が根付いていました。



半世紀ぶりに昭和53年卒の同期が再会（2025年8月10日「秋高バスケット部創部100周年記念祝賀会」にて）

ISUZU
秋田いすゞ自動車株式会社
代表取締役社長 (昭和50年卒)
辻 良之
取締役経営企画部長 (平成27年卒)
辻 良輔
<http://www.akita-isuzu.co.jp>

(株) 大潟村松橋ファーム
代表取締役 松橋 拓郎 (平成17年卒)

入院のできる
かかりつけクリニック
山王胃腸科
SANNO ICHOUKA
院長 最上希一郎
(平成7年卒)
TEL 018-862-5211
<https://www.sanno-ichouka.com>

A·B·C
株式会社
秋田物流センター
代表取締役
齋藤 靖之 (平成7年卒)
本社／物流センター御所野湯本
〒010-1415 秋田市御所野湯本二丁目1番2号
TEL(018)853-7211 FAX(018)892-6792
<https://abc-butsuryu.com>